

A37a 岡山理科大学田邊研究室天文台における活動天体の分光観測

今村和義、國富菜々絵、田辺健茲 (岡山理科大)

近年、冷却 CCD カメラの性能向上ならびに分光器の小型化に伴い、口径 20~30cm クラスの小口径望遠鏡でも 10 等級を超える暗い天体の分光観測が容易になってきた。田邊研究室天文台では 2006 年より小口径望遠鏡を用いて、冷却 CCD カメラによる低分散分光観測を行っている。観測装置一式は大学構内にある 21 号館屋上のスライディングルーフ式観測室に設置されており、すぐ下の階の制御室から遠隔で操作することが出来る。用いた望遠鏡はセレストロンの口径 28cm (F10)、分光器は SBIG の DSS-7 (分解能 15 μ m)、CCD は SBIG の ST-402 を使用している。これまで田邊研究室天文台では、輝線星、星雲、活動銀河核、新星などの分光データを取得することに成功した。施設、装置、方法ならびにこれまでの観測成果の詳細について発表する。